

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus sulcatus* Olivier

【選定理由】

海岸や河川の下流域の砂浜を代表する大型の甲虫。分布は局地的で護岸工事や河川改修などの人為的影響を受けやすく、近年では各生息地でも個体数の減少や生息地の消失が懸念されている。

【形態】

体長 28～38mm 以上と大型のゴミムシ。全身黒色で大顎は発達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美半島、三河湾、知多半島の各地の海岸、河川では矢作川や木曾川の下流域の河川敷、また津島市内の木曾川旧河道にあたる地域で記録がある。

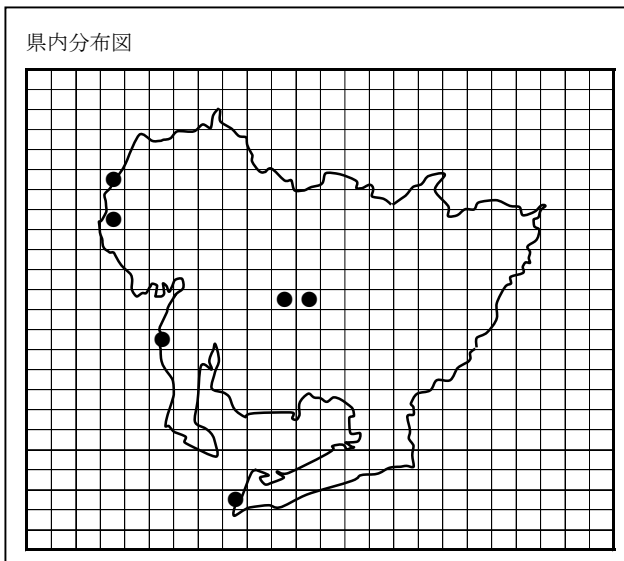
【国内の分布】

本州、九州、四国。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、インド。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河川や海岸の砂地および周辺の草地に生息する。成虫は砂地に深い坑道を掘り、主に夜間に活動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在、本種の生息できる砂浜や河川敷は徐々に狭められてきており、個体数も減少している。現在最も個体数の多い地域は稲沢市（旧祖父江町）の木曾川河川敷、常滑市の海岸の2箇所であるが、前者は公園整備とともに生息地が駐車場や公園施設の拡大によって狭められ、後者は空港の開港や海岸の公園化に伴い、海岸の整備が進み良好な砂地が減少し、生息地が消失の危機にある。

【保全上の留意点】

海浜や河川敷に生息するオサムシ科の甲虫はじめ多くの種は、一部の種を除き環境の悪化に敏感に反応し急速に絶滅する傾向が認められる。これは山地の森林に生息する種が連続する広範な生息地を背景に持っているのに対し、河川や海浜の生息地が線状であり簡単に孤立する危険性を持つことに一因があると思われる。これらの種や生態系の保全には、単にその地域のみを保全すれば良いというものではなく、前述の事柄を十分に理解しそれぞれの生息地を孤立させないような対策を行わなければならない。

【関連文献】

大平仁夫, 1975. オオヒョウタンゴミムシ岡崎市に分布する. 三河の昆虫, 10: 39.

大平仁夫, 1985. 岡崎市の甲虫類. 岡崎市史 自然: 1024-1096.

岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)